

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等	
日常生活活動学演習		必修	1	3	前期	
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー			
榎田 哲弥	C308	t.enokida	火曜日 10:30~13:00			
授業の目的・概要	対象者がどのように日常生活と関われば QOL を高めることになるのか考えることは重要である。本科目の目的は、①日常生活活動を評価する観点をも身につけること、②日常生活活動の評価結果を対象者の状態・状況に即して解釈すること、③対象者の症状・障害に応じた日常生活活動への介入方法を示すことである。これら3点それぞれについて講義した後、グループワーク等によって学生が主体となった検討を行ってもらう。尚、授業は動画を通して理解し、その後メディアを通じたフィードバック等により理解を深める。					
授業形式・方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> ディスカッション・レポート <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク					
学習上の助言	授業内容に関する質問は授業中及びオフィスアワーの時間に受け付けている。疑問や不明な点は早期の解決に努め、授業の進み方に合わせて理解を深めてほしい。					
教科書	①標準作業療法学専門分野 日常生活活動・社会生活行為学/編:濱口豊太/医学書院 ②脳卒中の機能評価-SIAS と FIM[基礎編]/編著:千野直一 他/金原出版 【2冊指定】					
参考書	特になし					
外部教材	特になし					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	日常生活活動を評価する各種の評価手段について意義・目的を説明することができる。			OT (1)、(2)		
②	対象者の症状・障害に応じた日常生活活動評価の項目を挙げることができる。			OT (2)		
③	日常生活活動に係る基本的な評価を実施することができる。			OT (2)		
④	日常生活活動評価の結果を、対象者の状況・状態に即して解釈することができる。			OT (1)、(2)、(3)		
⑤	対象者の日常生活活動上の問題に対して、適切な介入方法を示すことができる。			OT (2)、(3)		
⑥						
授 業 計 画						
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)			
1・2	[ADL 評価スケール①] ICF と日常生活活動の関連性、人・作環境・作業の関連性について学習する。	同時双方向型授業	教科書①、②の該当箇所を読んで予習する。 講義内容に沿って教科書①、②と配布資料でポイントを確認する。 提示された課題に取り組み、その振り返りも行う。			
3・4	FIM、BI などについて学習する。	同時双方向型授業				2
5・6	[ADL 評価スケール③] BI、FAI、老研式活動能力指標などについて学習する。	同時双方向型授業				2
7・8	ADL の質的評価について学習する (動画視聴による AMPS 評定、できる ADL としている ADL との差異の検討など)	同時双方向型授業				2
9・10	[福祉用具の活用①] ベッド・床上動作、移乗・移動関連用具の活用について学習する。 [ADL できない・しない要因①] 起居、移乗・移動	同時双方向型授業				2
11・12	[福祉用具の活用②] 食事・整容関連用具の活用について学習する。 [ADL できない・しない要因②] 食事、整容	同時双方向型授業				2
13・14	[福祉用具の活用③] 更衣・排泄関連用具の活用について学習する。 [ADL できない・しない要因③] 更衣、トイレ	同時双方向型授業				2
15・16	[福祉用具の活用④] 入浴、コミュニケーション関連用具の活用について学習する。 [ADL できない・しない要因④] 入浴、コミュニケーション	同時双方向型授業				2
17・18	[福祉用具の活用⑤] 炊事 [IADL できない・しない要因①] 炊事、買い物	同時双方向型授業				2
19・20	[余暇活動・生産的活動できない・しない要因] 畑・園芸	同時双方向型授業				2
21・22	ADL 上の問題点への介入方法について学習する①。 グループ発表①	同時双方向型授業	教科書の該当箇所を精読したうえで、演習で行ったことを中心に配布資料のポイントを確認する。			
23・24	ADL 上の問題点への介入方法について学習する②。 グループ発表②	同時双方向型授業	発表に向けた準備をする。			
25・26	IADL 上の問題点への介入方法について学習する。 グループ発表③	同時双方向型授業	2			

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

27・28	[疾患・障害別の日常生活活動①] 片麻痺、脊髄損傷、関節リウマチの ADL 支援について学習する。	同時双方向型授業	配布資料と講義内容のポイントを確認する。	2
29・30	[疾患・障害別の日常生活活動②] パーキンソン病、ALS、大腿骨頸部骨折の ADL 支援について学習する。	同時双方向型授業		2
試	定期試験 達成度評価、評価のポイントを参照			

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		80	0	20	0	0	100
総合 力 指 標	知識・技術力	40	0	0	0	0	40
	思考・推論・創造する力	20	0	10	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	5	0	0	5
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
問題を発見・解決する力		20	0	5	0	0	25

評価のポイント			評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
評価方法	行動目標			
試験	①	✓	授業で学んだ教科書、資料、口頭説明等の内容に基づいた内容が出題され、本科目で学んだことについてどの程度理解できているかが主に問われる。[配点]期末試験:80点	全体に向けた講評を Teams 上で行い、必要に応じてリモート等で個別に振り返りを行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥			
レポート	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
成果発表	①	✓	提示された事例について、評価結果を得て、日常生活活動上の問題点を焦点化し、その問題に対して適切な介入方法を示してもらう。どの工程においても明確な根拠を示すことを心掛けてほしい。グループ発表となるが、個々が能動的に行動することが求められる。	授業内で、発表ごとに意見交換とフィードバックを行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥			
ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			

備 考

他 担 当 教 員	
教員の実務経験	担当する教員は、作業療法士として5年以上の臨床経験を有する。
実践的授業の内容	臨床で得た知見も取り入れて、日常生活活動に関わる基本的事項について教授する。
そ の 他	Teams を使った同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推奨する。今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性はある。